

RPJ News

2018年 3月号

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801

毎月1回発行 E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守

連絡先 090-1811-7119

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

内 容

- * 「精神保健福祉交流促進協会 国内セミナーの今後の方針について」
～十勝・帯広セミナーの開催によせて～
代表 長野 敏宏
- * 平成 29 年度総会に参加して感じたこと
～これからの協会活動のあり方について～
精神保健福祉交流促進協会 理事（出雲市役所）三島 武司
- * 事務局からのお知らせ
 - ① 「十勝・帯広の精神保健・医療・福祉を掘り下げるセミナー」募集開始のお知らせ
 - ② 2018 年度会費のお願い

- * 「精神保健福祉交流促進協会 国内セミナーの今後の方針について」
～十勝・帯広セミナーの開催によせて～

代表 長野 敏宏

協会の代表を引き継がせていただいで1年が経過しようとしています。正直なところ個人的には「協会を存続させていく」という以外に明確なビジョンを持たないままの出発で、随分ご迷惑をおかけしているのではないかと心配しています。今回、十勝・帯広でのセミナーを開催するにあたり国内セミナーの今後の方向性について(個人的に)考えていることをまとめてみたいと思います。会員の皆さん、また関わって下さる多くの方々と、セミナーを有意義なものに深めていくためのたたき台になれば幸いです。

○これまでの国内セミナーについて

明文化されたものではありませんが、当初は、基本的に「開催地が主体的に協会のセミナーを利用してその地域の課題に取り組むもの」という位置づけでした。予算も開催地が工面し、不足する事務局費用へ少しでも納入できるよう配慮していただいできました。ちなみに、御荘・愛南町では、全国のつながりを再確認して地域住民がエンパワメントされた上に、当時の谷中輝雄代表や多くの仲間以外から継続的に愛南町の取り組みを見ていただき次のテーマを見出すきっかけにできました。

しかし、各地でのセミナーを重ねていく中で、様々な開催の仕方が生まれてきました。「協会が主体となって、その地域で学ばせていただくもの」「同窓会的に集まることを主目的にしたもの」などもありました。今も、様々なセミナー開催の仕方・考え方があっていいですし、多様であるべきだと考えていますが、今回十勝・帯広セミナーを企画するにあたり、様々なご意見をいただき、このままでは空中分解してしまうのではないかと危機感をいだかざるを得ませんでした。思い起こすと、協会の中でその考え方についてこれまで議論があまりできてこなかった、もしくはごく一部の皆さんにお任せしすぎてきたのではないかと反省しています。

やはり、ある程度の議論し、「開催毎にそれぞれ開催地の考え方を尊重し、共有すること」と「協会としての(緩やかな?)方向性を持つこと」が、今、必要だと考えています。

○平成 30 年 5 月 十勝・帯広セミナーの狙い

前回企画していただいたセミナーが台風の直撃により中止にせざるを得なくなりましたので、リベンジでの開催になりました。今回のセミナーは、ずばり「よく学び、良く学べ」という方針で打ち合わせを始めました。精神保健福祉において、全国的なつながりが乏しかった協会発足当時に比べ、様々な団体や職能による研修会が頻繁に行われ、また SNS も活発に活用されるようになってきた現在、同窓会的な意味合いは一旦棚上げしました。もちろん「よく学ぶ」ことでそれぞれの力をつけることは、協会の趣旨である「リフレッシュとエンパワメント」でバーンアウトを防ぐということに沿っていることでもあります。

その上で「十勝・帯広から何を学びたいか」と考えていくと、やはり、日本全体では十分な変化・成果をあげられていないと言わざるを得ない「長期入院の課題を含む精神科医療」が、なぜここまで変わってきたのかいうことを明らかにして、深く学びたいと強く思うようになってきました。「圏域人口 34 万人(帯広市約 17 万人弱)で、かつて約 1,000 床あった精神科病床は現在(平成 29 年 630 調査)、6 病院から 4 病院に減り、病床は 461 床(入院は 329 人)、一年以上の入院者は 98 名、地域全体での平均在院日数は 96 日」というデータは、日本全体で、諸外国からははるかに遅れて当面目指していることをいち早く実現したものと捉えています。もちろん、その背景に長年、地域生活支援に取り組んでこられたことがあった上での価値のあるものであるので、数字だけに注目している訳ではありませんが、日本全体の制度改正が十分には進まない状況で、地域生活支援の充実がこの数字を生み出したことは特筆すべきことだと思います。

当初、私個人としてはいくつかのテーマが思い浮かびました。まずは「十勝・帯広の歴史」、精神医療保健福祉のみならず、従来なら他分野といわざるを得ない高齢者福祉をはじめ様々な機関との連携、また、産業・経済界や青年会議所、文化活動などとも直接、間接的に関わりながら実践を重ねられてきたことや、地域生活支援・福祉の立場から精神科医療とどう向き合ってきたか、どんなタイミングで、誰がどう具体的に働きかけてきたのかなど知りたいことはあふれ出てきました。もちろん、これからのことをどう考えているのかということもとても重要です。さらに、その中で「精神科医療」がどう考え、どう決断し、どう変わってきたのか、そして、現在の精神科医療はどのような考え方で実践されているのか、複数の医療機関の考え方の違いはどうなのだろうか、と。医療の立場では、何を課題と捉えてきたのだろうか。経時的にはどう変化してきたのか、と。また、全国的によく拡がりはじめた「就労支援」はどう取り組んできたのか。共同作業所づくりから、企業との連携などいち早く取り組んでこられていて、現在の状況はどうなのか。今、何を大切にされていて、これからどう見ておられるのか。「海外との交流のあり方」も気になりました。技法やツールの導入という形が多い日本の現状に課題を感じていますので、マディソンと長年交流しながら、それがどう地域に生きてきているのかということも気になります。さらに、ご本人中心にどう「ケアマネジメント」され続けてきたのか。現在、相談支援を多事業と独立させている意味やしくみとしてのあり方をどう考えているかも大切です。

ぐるぐると頭の中で考えていると、大きな研修会や目的のはっきりしないセミナーではなかなか掘り下げることができないことに本質的な何かが隠れているような気もはじめました。今回、打ち合わせのために、2 回帯広にお邪魔しました。1 回目はこれまで書いたようなことを三上さんに投げるだけになったのでは…と思ったりします。それから、国立精神・神経医療研究センターの藤井先生に相談させていただき、再度、藤井先生もご一緒して下さり、帯広へ。門屋さんとも相談させていただきました。その結果、今回のセミナーが誕生しています。グループワークも含め、ひとつひとつを赤裸々に掘り下げ、十勝・帯広の実践から学

び、内容を記録に残し、日本全体の政策にも活かしていくことができれば、と企画しています。

あと、懇親会もセミナーの中で重要です。帯広からの原案には「飲んで酔って無礼講 今日のセミナーを掘り下げる時間となる懇親会」と。会場の「ランチョエルパソ」には、2度目の打ち合わせの時にお連れいただきました。素晴らしい料理と雰囲気です。とてもとても楽しみです。

※2004・2005年と2年続けて帯広
セミナー懇親会は「ランチョエルパソ」
で、写真は2004年谷中代表を囲み



○今後の協会国内セミナーのひとつの軸として

十勝・帯広セミナーの成果を確認してから、十分に検討しなければなりません。各地域の実践をこのような形で、外から掘り下げていくことはとても価値があるのではないかと考えています。御荘・愛南町を考えても、内からは歴史などを少しずつまとめていますが、やはり外からの視点や評価がとても大切だと感じています。しかし、地域全体を外から評価を受けるようなしくみは日本には無いのが現状です。協会として地域の評価などはとても力不足でできませんし、目指すものでもありませんが、このような形で掘り下げ、学び、記録に残すことで、日本全体が良くなっていくことにつながれば、とても意義深いことになるのではないかと考えています。協会誌である「メンタルヘルスとウェルヘア」は、国立図書館への登録がされていますので、それも活用できればと思います。

○今後に向けて

前にも、協会では「様々なセミナー開催の仕方・考え方があっていいですし、多様であるべきだ」と書かせていただきました。それは変わりません。ただ、もうどなたか任せの運営では協会の存続意義が失われてしまう段階にあるような気がしています。今回のセミナーにまずは丁寧に取り組んで、多くの皆さんとの意見交換が活発になされていくことを望んでいます。今後ともよろしく願いたします。

* 平成 29 年度総会に参加して感じたこと

～これからの協会活動のあり方について～

精神保健福祉交流促進協会 理事（出雲市役所） 三島 武司

去る2月3日17時から東京新橋で開催された本協会の総会に参加しました。実際の参加者は9名（委任状と併せると60名）と決して多くはありませんでしたが、しっかりと話し合いを持つことができ、とても中身の濃いものであったと思っています。

2002年に活動を開始した本協会は、現在2度目の大きな変革の時を迎えていると思います。1度目はもちろん2013年12月29日に谷中先生を失ったときであることは言うまでもありません。そのとき以来事務局として本協会を支えてくださっていた仁木さんご夫婦がご事情で第一線を退かれて（と言っても現在も事務局としてご尽力いただいておりますが）、初めての総会に参加させていただいて、それを強く感じました。

私を含めて参加者は、様々な思いを持って総会に参加したのだと思います。もしかしたら不安や心細さもあったのかもしれませんが。それぞれの思いを胸に、総会の議論は大いに盛り上がり、来年度の活動はもとよりこれからの協会のあるべき姿にまで話は及びました。話し合いは3時間近く続きましたが、話が尽きる様子はなく、新橋にある私がおすすめするもつ焼き屋さんに会場を変え、閉店まで続けました。

これだけ話をしたのは本当に久しぶりでした。本来は会員同士のこうした話し合いや意見交換を通して、会員が自ら考え、汗をかきながら活動は組み立てられるべきであることに今更ながら気づかされました。裏を返せば、これまでは活動の組み立てから実施まで事務局にお任せであったということだと思っています。現

在、私は仁木さんに甘えて過ぎていたことを素直に反省しています。

思い起こせば、本協会のスタートのきっかけは間違いなくヴィレッジとの出会いでした。ヴィレッジの理念、①チームによる支援、②徹底的した自己決定、③ハイリスク・ハイサポートなどを単に知識として教わるのではなく、現場で実際に触れて感じるという貴重な体験を共有できたことが、今にして思えばいかに大切なことであったかと思えます。

この体験が、2000年から愛媛県愛南町(旧御荘町)を皮切りに始まったリフレッシュセミナー(アフターヴィレッジ研修)につながったと思っています。また、ヴィレッジ研修の大きな成果のひとつとして、全国のような職種の人たちと出会いがありました。この出会いとつながり、そして谷中先生をはじめとする皆さん方の熱い思いを原動力に本協会は立ち上がったものと確信しています。

このたびの総会は、私にとって初心に帰る良い機会でした。また、今年の5月12日～13日に北海道帯広で開催が予定されているリフレッシュセミナーは、非常に中身が濃いものになる見込みです。その場で全国の仲間とともに考え、しっかりとした意見交換ができることが今からとても楽しみです。もちろん、谷中先生がご生前に最も心を砕いておられた「精神保健福祉活動の現場で活躍する人々が、多忙な日々の活動で燃え尽きることはないように、リフレッシュとエンパワメントできる機能を十分に考慮した事業を展開すること。」は、これまでも、そしてこれからも本協会の道しるべだと思っています。

* 事務局からのお知らせ

① 「十勝・帯広の精神保健・医療・福祉を掘り下げるセミナー」募集開始のお知らせ

日時 2018年5月12日(土) 13時～18時 プレゼンテーション等

19時～ 懇親会と意見交換会

13日(日) 9時～12時30分 プレゼンテーション等

会場 帯広市西6条南6丁目3 ソネビル6階講習会室

(帯広駅から徒歩10～15分)

募集定員 50名(先着順での受付となります)

参加費 セミナー 3,500円、懇親会 4,500円

※宿泊は各自ご用意ください。

※詳細は案内書をご覧ください。

② 2018年度会費納入のお願い

会員の皆様に会費のお願いをさせて頂きました。是非今年度もご協力いただけますよう宜しくお願い申し上げます。



—編集後記—

三島さん、原稿ありがとうございました。自分の原稿を書き終えた後読ませていただきました。ますます、皆さんとの意見交換の必要性を感じています。また、このニュースの編集に関しても、また皆さんのご意見をいただきたいと思っています。会員外の方でも、読んでいただいた方がありましたら、ぜひご希望などお寄せいただけると幸いです。よろしく願いいたします。(長野)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会 TEL090-1811-7119